

# 広告原稿制作ガイド

Illustrator CS4 Photoshop CS4 推奨  
N-PDF については Illustrator CS2 以上  
InDesign CS4 以上推奨

2016.08.01版

## 新聞印刷の特性を把握してください

新聞印刷には、ポスターやチラシを印刷する一般の商業印刷とは大きく異なる特性があります。新聞の広告原稿を制作する際は、その特性を把握しておくことが重要です。

### 特性1 新聞印刷は超高速印刷

新聞はオフセット新聞印刷輪転機で印刷します。この輪転機は大量の印刷物を超高速で印刷できるよう設計されており、当社では1時間に10~12万部のスピードで印刷しています。商業印刷のように時間をかけて印刷することができません。

### 特性2 新聞用紙は浸透性の高い軽量ザラ紙

新聞用紙は、超高速印刷に耐えられるよう、軽くてインキの吸収が早いザラ紙を使用しています。この用紙は白色度が低く、あらかじめ黄色っぽい色がついています。したがって、商業印刷に比べて使用できるインキ濃度の幅が狭くなります(商業印刷の濃度幅0~1.8程度に対し新聞は0.2~1.2程度)。

### 特性3 低粘度のインキを使用

新聞印刷では、超高速で印刷する関係上、乾燥機がありません。紙にインキを浸透させて乾燥させますので、インキは商業印刷に比べて粘度の低いものを使います。このため、印刷時に網点が押し広げられて太る「ドットゲイン」という現象が起きます。特に中間調(30%~60%の網点)で著しく、15%~30%の割合で太ります。原稿制作時の網濃度の指定は、ドットゲインを十分考慮する必要があります。

## 原稿サイズを確認してください

広告原稿の制作の際は、必ず**原稿サイズを確認**してください。デジタル原稿はカラー、モノクロとも同一サイズです。当社では、RIP展開時に自動的に指定サイズに偏倍しますので、原稿サイズが違くと、文字やロゴ、写真などが扁平になったり細長くなったりすることになります。

## 広告原稿制作のポイント

### Point1 推奨するアプリケーション

特に次のアプリケーションを推奨します。  
Illustrator CS4 Photoshop CS4  
N-PDFについてはIllustrator CS2以上、InDesign CS4以上(モノクロ原稿不可)をお願いします。

### Point2 フォントはすべてアウトライン化

使用するフォントはすべてアウトライン化してください。できるだけ6ポイント以上を使用してください。白抜き文字は小さくなり過ぎないようにご注意ください。

### Point3 文字や図形の色設定は正しく

モノクロ原稿の場合はグレースケールに、カラー原稿はCMYKモードで作成してください。RGBモードは色調が意図したものと変わってしまう危険性が大きく、使用不可。

### Point4 画像は適切な解像度で入力

画像は掲載実寸で200~300dpi程度、ロゴなどのモノクロ2階調の画像ファイルは掲載実寸で1200dpi程度にしてください。

### Point5 画像データは埋め込み

EPSファイル・N-PDFファイルともに原稿内の画像データは埋め込みしてください。

## 原稿データ作成時の留意点

### 画像解像度とスクリーン線数

画像解像度は最終出力解像度がカラー・グレイ画像では200～300dpiに設定

※高精細スクリーンの採用により、スクリーン線数はモノクロ原稿が140線、多色原稿が200線に変更になりましたが、線数の2倍の解像度は必要ありません。

※不必要に解像度が高い画像データは、RIP時のエラーの原因になるだけでなく、原稿全体の容量を重くするため、プリントアウトやオンライン転送をはじめあらゆる作業の効率が悪化します。また、解像度が低すぎるとジャギー発生の原因となります。

※当社では、極端にデータサイズの大きな原稿はお受けできないことがあります。ご注意ください。

- 透明効果を使用する場合は、「ドキュメント設定」内で「透明」の解像度を「高解像度」に設定してください。
- 二次元バーコード(QRコード)はグレースケールまたは二値画像で作成  
バーコードに対して多色を使用すると正常に読み取れない場合があります。必ずグレースケールで作成のうえ配置してください。
- UCRを240%以下にする  
Photoshopで調整を行う場合は、[CMYK設定]の[色分解の種類]でUCRを選択し、[インキの総使用量の制限]を240%に設定してください。
- カラー画像は補正してグレースケールに変換  
カラー画像をグレースケールに変換する場合、カラー画像をそのまま変換するとメリハリのない画像になることがあります。カラー画像は階調などを補正してからグレースケールに変換してください。
- 画像データは必要最小限の範囲にトリミング  
画像データはPhotoshopで必要最小限の範囲にトリミングしてIllustratorのデータに貼り込んでください。マスク処理で隠れている範囲が大きな画像を使用すると、不要な部分が全体の容量に加わって、不必要に重いデータとなってしまいます。
- オーバープリントの設定は反映されませんが、事故防止のために設定はオフにしてください。
- 完成したらオブジェクトを確認し、不要なものはすべて削除  
原稿が完成したら、アートワークモードでオブジェクトを確認し、原稿データ以外の不要なオブジェクトはすべて削除してください。不要なオブジェクトがあると、原稿が正しく再現できません。  
不要なオブジェクトとは次のようなものです。
  - 不要なアンカーポイント(孤立点)  
オブジェクトメニューで[パス→パスの削除]を選択し、[余分なポイントを削除]と[空のテキストパスを削除]にチェックして[OK]ボタンを押すと一括削除できます。
  - 使用しなかったオブジェクト  
制作途中で枠外に仮置きし使用しなかったオブジェクトは必ず削除してください。
  - 白塗りオブジェクト  
写真のトリミングは、白塗りオブジェクトではなくマスク処理を行ってください。
  - 余分なテキストスペース  
原稿サイズからはみ出しているものは修正してください。
  - トンボや注釈  
原稿データには必要ありません。必ず削除してください。
  - その他  
ガイドラインも削除してください。
- PDFの書き出しの際、「web表示用に最適化」にチェックが入らないよう注意してください。チェックが入っている場合、正しく処理がされず入稿できません。
- N-PDFについては「Acrobat」で「N-PDF」のプリフライトファイルを用いてプリフライトを実行し、データ不備のないことを確認してください。詳しくは「[新聞広告デジタル制作ガイドN-PDF](#)」を参照ください。